

## II 実証ほの成果紹介

### 1 マンゴーでのハダニ類の種の同定と防除体系の検討

#### 1 課題を取り上げた理由及び目的

マンゴーではハダニ類が年間を通して散発的に発生し、特に果実肥大期に発生すると農薬散布で果皮障害を起こすために対策に苦慮している。マンゴーでのハダニ類の農薬登録の少ない中で効果的な防除体系の確立が必要である。

#### 2 実証の概要

(1) 設置場所 徳之島町亀津

(2) 耕種概要

ア 対象作物 マンゴー  
 イ 品種 アーウィン  
 ウ 作型 無加温栽培7-8月収穫  
 エ 樹齢 11年生  
 オ 栽植様式 株間3m  
 カ 施肥量(kg/10a) N:15, P:15, K:13(栽培基準に準ずる)  
 キ 区の設定(各区3連棟ハウス, ハダニ類防除薬材のみ掲載)

農薬散布履歴			
	散布月日	スパイカルプラス区	化学農薬区
R3	8/20	ハーベストオイル	ハーベストオイル
	10/18	サンマイト水和剤	サンマイト水和剤
	12/25	クムラス	クムラス
R4	2/1	スパイカルプラス	—
	5月予定	カネマイトFLか マイトコーネFL	カネマイトFLか マイトコーネFL

#### 3 調査結果

各時期に発生したハダニ類を調査したところ、ハダニ雄の挿入器の観察により、シュレイツメハダニであることがわかった(図1)。8月20日のハーベストオイル散布後10月15日、12月13日と約2ヶ月おき発生が認められた(図2)。スパイカルプラス区で発生が早い傾向があり、同じ株から発生が認められた。他マンゴーほ場で2月にハダニ類の発生が認められたが、対象ほ場では発生を認めなかった。ハダニ発生のが早かった3連棟ハウスにスパイカルプラス放飼を2月1日に行った。



図1 ハダニ雄の挿入器

#### 4 考察

果樹類登録のクムラス(有効成分硫黄)により、5月までハダニ類の発生を抑制できれば、登録農薬が少なくても化学農薬での防除が可能と考えられる。またスパイカルプラスの効果を化学農薬のみの区と今後比較したい。

#### 5 残された課題

ハダニ類への生物農薬の効果

#### 6 実施者 西 菜穂子

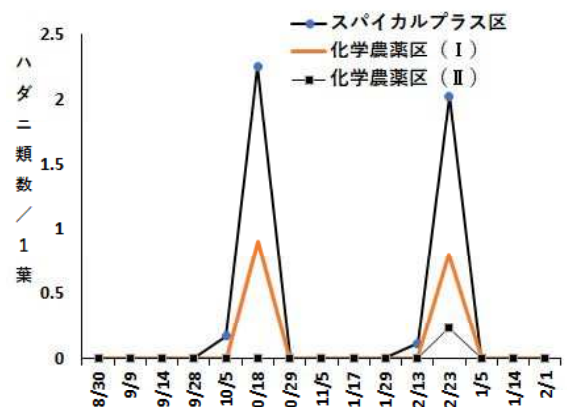


図2 マンゴーでのハダニの発生状況

\*各区1株あたり30枚調査, 3株平均